

消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

【事故概要について】

1. 事故・ヒヤリハットの別	事故
2. 体験した事例の名称	災害現場、出向中、現場敷地内のマンホールを破損した。
3. 体験した事例の中心的要素	マンホール上の耐加重を超える車両で通過したこと。
4. 体験した事例の原因・理由	マンホールの耐加重の認識不足。

【体験した事例の直接的な原因について】

1. 体験した事例の直接的な原因	
------------------	--

【体験した事例について】

1. 発生日時	平成22年5月17日 午前11時頃
2. 発生した当時の天候	晴れ
3. 発生した活動現場	屋外：現場敷地内
4. 体験した事例の種類	
5. 事故の程度(ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度)	
6. どのようなことが起きたのか(起きそうになったのか)	その他：マンホールの破損
7. 事例体験時の活動	その他：ドクターヘリ後方支援のため出動
8. (7の活動中)どのような作業中に発生したか	その他：ドクターヘリ後方支援のための現場敷地内への進入時。
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した

●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●

○当事者A	年齢[28]歳、勤続年数[6]年、現場経験年数[6] 年、階級[消防副士長] 同様の活動 [頻繁]、任務 [機関員]
○当事者B	年齢[53]歳、勤続年数[35]年、現場経験年数[35] 年、階級[消防司令補] 同様の活動 [頻繁]、任務 [車長]
○当事者C	年齢[]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[] 年、階級[] 同様の活動 [], 任務 []
○その他(当事者が4人以上の場合)	

[illegible]

	誰が(何が)	なにをした	その他・備考など
経過1	消防車両	ドクヘリ後方支援で敷地内走行中マンホールの蓋を破損した	
経過2			
経過3			
経過4			
経過5			
経過6			
経過7			
経過8			
経過9			
経過10			
経過11			
経過12			

[illegible]

○事故の場合：事故が起きたのはどうしてだと思うか？

○ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

その他：マンホールの破損(マンホールの耐加重の認識が低かった)

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	いいえ
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ
b. 注意力が欠如していた	
・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	いいえ
・活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	はい

d. 心身の不調があった。

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境(雨・濃煙)によって視界がさえぎられた。

・障害物(建物等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境(煙、暗闇、降雨等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	はい
・暑かった(寒かった)。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった(適切な指示を与えられなかった)。

・活動指示が得られなかった。(無線が通じない等。)	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。(周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。)	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

マンホールの耐加重の認識が低かった。

【事故発生後の取り組みについて】



○注意力欠如、焦り等の対策について

敷地内での活動時、全隊員で注意箇所を認識するよう再確認した。

○装備・資機材の対策について

車重などの確認、今回にあっては、敷地内のマンホールの耐過重の確認を実施し対策とした。

○活動環境の対策について

敷地内(私有地含む)での活動時、注意箇所(危険箇所)の情報を共有することにより再発防止に努める。

○指揮・情報伝達の対策について

事故発生後、各隊の対応は勿論のこと、危機事象発生危機管理即報で本部全体で把握をし安全管理情報(即報)として伝達を行っている。

現場敷地内を走行しグラウンド進入時に後輪がマンホールにのり破損した。

